

# 個人情報保護のための枠組みに関する研究



## 社会情報システム研究室 コンピュータセキュリティ班

- プロジェクトメンバー  
(グループリーダー)
  - 工学部 電気情報系学科  
准教授 高橋健一
  - 工学部 電気情報系学科  
教授 川村尚生
  - 工学部 電気情報系学科  
教授 菅原一孔
  - 工学研究科  
博士課程 松永崇秀

### 研究概要:

オンラインショップやホテルの予約などのインターネットサービスでは名前や住所、電話番号等の個人情報の入力を要求する。一方でサービス提供者によって収集された情報の漏洩や不正利用が問題となっている。そこで、各利用者が情報の利用方法を制限・制御可能な枠組みを提案している。また、本枠組みをWebサーバおよびWebブラウザの一つであるGoogle Chromeのアドオンとして実装し、実現可能であることを示した。本研究の成果は情報の不正利用を防止するのみならず、フィッシング詐欺対策としての効果も期待でき、安心・安全なインターネット環境を実現するための一助となることが期待できる。

### 研究の背景:

ネットワークの普及に伴い様々なインターネットサービスが利用されている。オンラインショップやホテルの予約などのインターネットサービスでは利用時に利用者の名前や住所、電話番号等の情報の入力を要求する。インターネットサービス提供者は利用者の情報を使い、利用者認証や提供するサービスの最適化を行う。しかし、一方で、サービス提供者における情報の漏洩や不正利用が問題となっている。

一般的に利用者の情報確認はサービス提供者が持つプログラムによって行われる。サービス提供者は利用者から個人情報を受け取り、サービス提供者が持つプログラムで利用者の情報を確認する。しかし、一旦サービス提供者に開示された個人情報を利用者は制御することができず、サービス提供者による情報漏洩や不正利用に対処することができない。

他の確認方法として、信頼できる第三者機関に個人情報の確認を依頼する方法が考えられる。このとき、利用者とサービス提供者の双方が信頼できる第三者機関であれば、利用者はサービス提供者による情報の不正利用の心配をする必要がなく、サービス提供者も直接個人情報を得ることなしに個人情報を確認することができる。しかし、利用者とサービス提供者の双方が信頼可能な第三者機関を準備しなければならないといった課題が存在する。サービス提供者の代わりに利用者自身が確認するといった方法も考えられるが、確認結果を利用者が詐称する可能性が存在する。

そこで、我々は利用者自身が個人情報の処理方法を決めることができるための枠組みを提案している。



